



# 病院に芸術を

作品解説 中西 繁

櫻園通信 77 令和 4 年 8 月

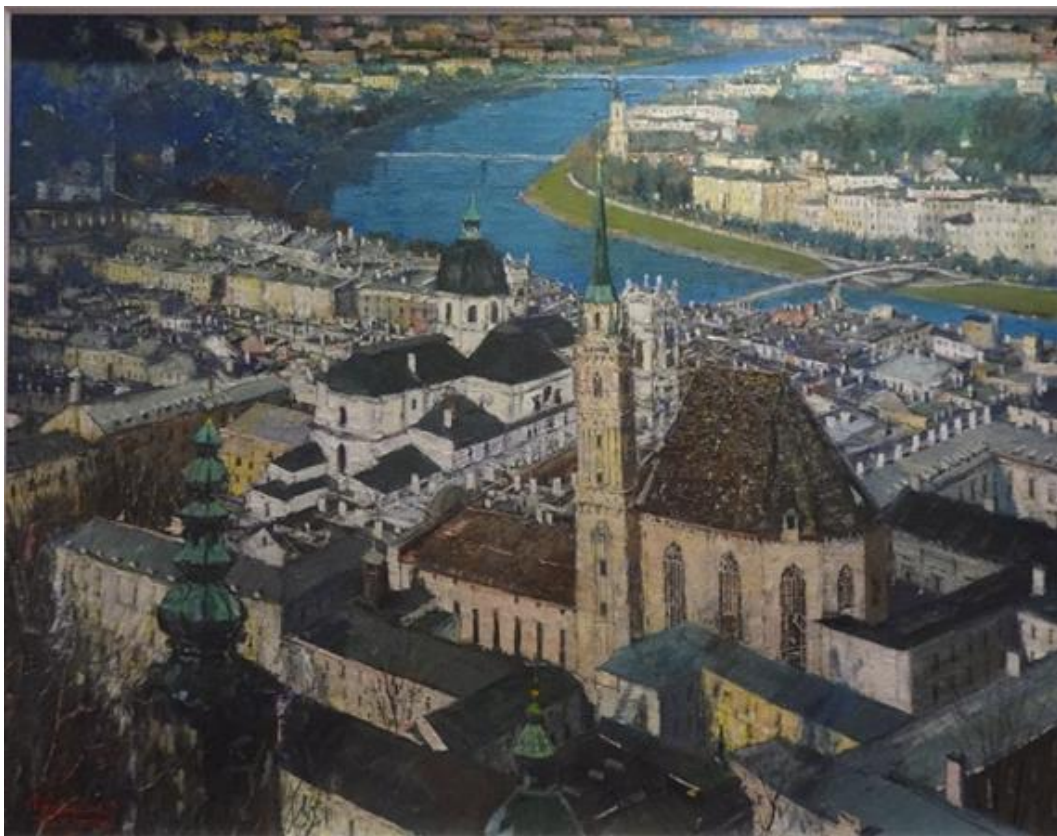
東京都健康長寿医療センター  
養育院・渋沢記念コーナー  
連絡先: 老年学情報センター

## ホスピタル アート ワーク 芸術作品で病院を癒しの空間に

2013 年に東京都健康長寿医療センターの新施設建築時、設計段階でアートワークを重視するアート選定委員会がもたれ、討議をベースとしたデザインがなされた。以来 8 年たち、養育院・渋沢コーナーも整備された。

2021 年に、油絵画家中西 繁画伯より、ヨーロッパの風景画の 150 号、100 号の大作のご寄付を頂き 1、2 階ロビーの壁面にすえ、彩りを添えた。画伯に自身の作品解説を頂いたので紹介する。

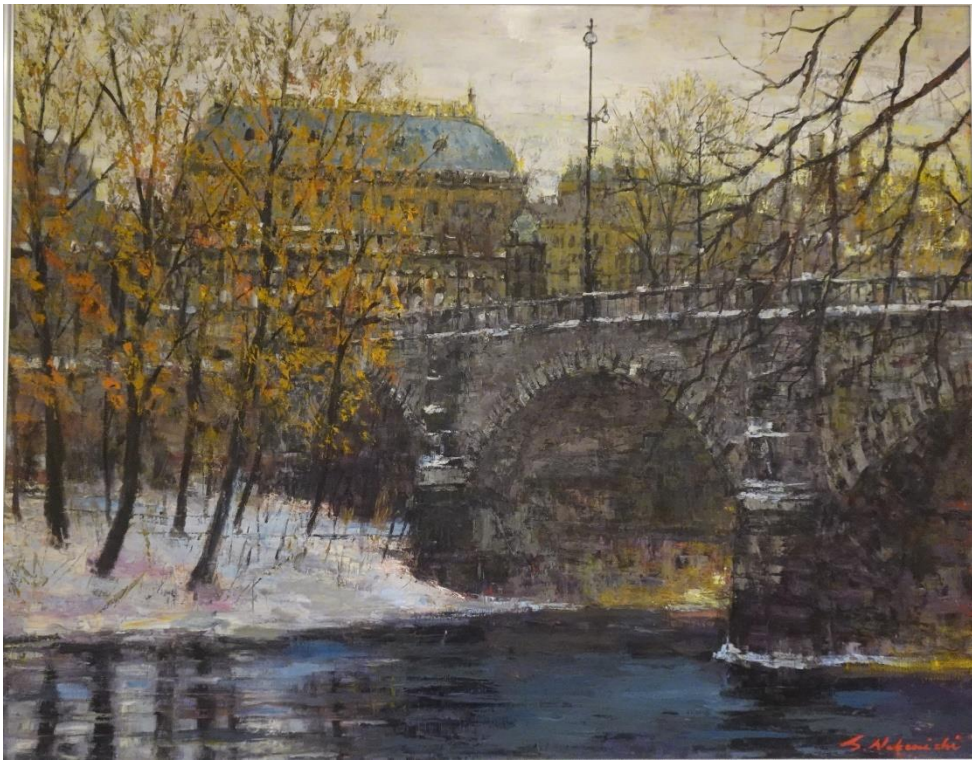
東京都健康長寿医療センター顧問医 稲松孝思



## ザルツブルグ遠望 150 号

オーストリアの古都ザルツブルグ。ドイツ語でザルツは塩、ブルクは砦。岩塩の産地で興った町です。1756 年ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトが生まれ 25 歳まで過ごした街。1906 年には指揮者のヘルベルト・フォン・カラヤンもこの街で生まれました。ザルツブルグ音楽祭が行われる音楽の街と言っている。ミュージカル、サウンド・オブ・ミュージックの最後の音楽祭の舞台も現存します。絵は、市街地から 50m ほどの高台に建つホーエン・ザルツブルグ城からの眺めです。旅行先での

取材であるため、私の撮影した写真をもとに制作しました。城の下に多くある教会の塔をポイントにほぼ実景です。ザルツァッハ川に架かるシュターツ橋を渡ったところの左手の建物でカラヤンが生まれました。その道を進むと大きな広場になっていて、右手の一角にモーツァルトの生家である記念館があります。12月の天気の良い日でした。澄み切った空気に、注ぐ太陽の光線が作る影が強く、美しい。森の緑は色濃く、ザルツァッハ川の川面がどこまでも清く感じられました。



## 朝のレギー橋 100号

チェコ共和国の首都プラハは中世、カレルIV世の頃、神聖ローマ帝国の首都として栄え、ローマ、コンスタンティノーブルと並ぶ欧州の3大都市のひとつでした。その頃から建設された建築が現在もそのまま残されています。私は世界で一番美しい街と思っています。町中を流れるヴルタヴァ川(ドイツ語でモルダウ)からのプラハ城の眺めは素晴らしい。華麗なカレル橋のひとつ上流側に架かるレギー橋はともに古い橋の一つです。アーチ構造の石造りの美しい橋で、正面に見える建物が国民劇場。チェコがハプスブルグ家から独立して共和国になった1868年に建設が開始されたのですが竣工の直前に火災が起きて、最上階の屋根が全て焼き崩れたと言

います。時の為政者が全国に募金を呼び掛けて再建、1900年頃完成しました。私は三度ほどプラハに行きましたが、この国民劇場でオペラの当日券を買って観たことがあります。日本よりとてもお安く気軽にオペラが楽しめたボヘミアン・グラスでも有名です。ユダヤ人街の手前にボヘミアン・グラスのお店がいっぱいあります。シンプルなカットの分厚いウキスキー・グラスが気に入って、1,500円というので店員に頼みましたら、5個セットでした。カレル橋を渡って小地区と呼ばれる旧市街地に行きますとまさに中世の街並みそのものです。モーツァルトが何度か演奏旅行で訪れています。

中西繁 1946年東京生まれ。東京理科大学工学部建築学科卒。

建築家として数々の設計を手掛けた。一方で、若いときからゴッホの油絵にぞっこんであったが、1990年に油絵画家としても画壇にデビューした。「哀愁のパリ」、「古都の旅」、「ニューヨーク」、「巴里の空の下で」、「北欧・冬の旅」、「逸楽と憂愁のプラハ」、「光の廻廊」、「懐かしのリスボア」、「イベリア半島の旅」、「エーゲ海の旅」、「地中海の旅」、「哀愁の巴里」など、ヨーロッパ各地を旅しながら毎年個展で発表した。2000年には、画業一本になる。2004年から2年間パリ留学し、フランス国立美術学校(エコール・デ・ボザール)で学んだ。かつてF.F. ゴッホが住んだパリ・モンマルトルの部屋を住居兼アトリエにし、パリを基点に制作を続けた。1995年の阪神大震災をきっかけに「廃墟」を描き始め、人類の正と負の遺産をテーマに「廃墟と再生」展を全国12都市巡回し、平和と社会正義を訴えている。2014年に静岡県伊豆の国市に、自然を生かし自然に生き助け合って創作活動を楽しむのを目的に「伊豆の国アートヴィレッジ」を開設した。